

2020年12月度 名著セミナー読書会 事前設問アンケート

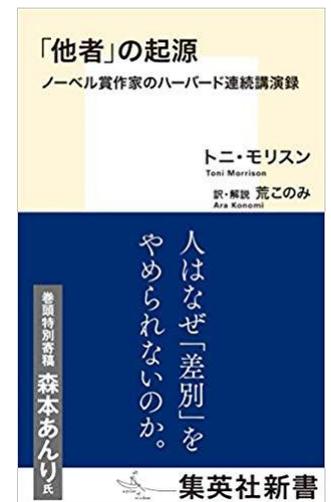
(このアンケートは、名著セミナー関係者と常連の皆様にお送りします。)

- ▶ 傍聴の場合は、回答提出の必要はありませんが、セミナーはこのアンケートをベースに進みます。
- ▶ 2020年12月12日(土)は13:00より約2時間半程度Zoomによるリモート読書会を行います。詳細は別途ご連絡致します。
- ▶ 尚、名著セミナーに関する電話でのお問合せは、全て事務局090-6347-3295をお願い致します。

課題図書 『他者の起源』 トニ・モリソン 著 集英社新書 (税込1,012円)
ノーベル賞作家のハーバード連続講演録
荒このみ訳 読書会実施：2020年12月12日(土)

(はじめに)

1619年20人のアフリカ人がアメリカ植民地に上陸しました。アフリカ人は最初年季奉公人(一定の期間が来れば土地などを与えられて独立する)として迎えられました。憲法で“5分の3”と数えられた黒人ですが、公民権法の改正によって、法的には差別は解消されました。現在は学者・研究者・行政の長・政府の高官になる人も多く、正・副の大統領就任も実現しそうです。人口比ではまだまだですが。しかし奴隷制の下で、白人優位のアメリカ社会はアメリカの黒人の大多数を徹底的に社会的弱者にしました。今も警官などの公権力による不当な暴力が発生します。今回の大統領選の報道を見ると、トランプ大統領は白人票だけで当選しようとしている、アメリカの黒人の存在を無視していると私には思えました。アメリカの分断は解消に向かうことが出来るのでしょうか。解消に向かうことをねがいますが。



設問内容	
1	<p>設問1 第一章では、トニ・モリソンは「奴隷制度のロマンス化」について以下の4つの作品を引用しています。「ロマンス化」についてあなたの感想やご意見をお聞かせください。</p> <p>カーライトの優生学の報告/科学的人種主義、 ジャマイカの農園主トマス・シルズウッドの日記、 ストウ夫人の小説『アンクル・トム的小屋』、 ジョリー・A・シェファアの研究書</p>
2	<p>設問2 トニ・モリソンは人種は一つ、ヒトだけだと主張しています。ブルース・ボームは著書『コーケイジャン(白人)人種の台頭と衰退』2006年で「人種とは、簡単にまとめると力関係である」と結んでいるそうです。P52 “人種”は他者化の過程でも有効に働いているのではないのでしょうか。人種と他者化、あるいは人種、他者化どちらか個別でも構いません。あなたのお考えをお聞かせください</p>
3	<p>設問3 トニ・モリソンは幼い時に漆黒の肌の曾祖母に、不純な血が混ざっていると指摘され、そのことがたかさんの執筆の動機になっていると述べています。第五章では1856年ケンタッキー州から自由州オハイオ州へ逃れてきた家族の一部始終が紹介されています。奴隷の母親は前の農園主の娘で、その子たちは今の農園主の子供たちなのです。白人の血ではなくて、黒人の血で峻別される。これはどういうことなのでしょう。一滴の血、または肌の色(カラーイズム)につて感想又はご意見をお聞かせください。</p>

回答と返信上の注意：上記の各質問への回答は、回答のみをA4用紙の1枚に纏めてください。

回答用紙の最上段に以下を記載し、その行の下から、1、2、3、4、の順に、番号と回答のみを書いてください。

回答者： _____ 『他者の起源』 トニ・モリソン著 集英社新書 実施 2020年12月12日(土)

回答送付先/ Eメール rz.tominaga@ac.auone-net.jp (電話 045-835-2017) 回答締切 20年12月6日(日)